

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 31 日現在

機関番号：17701

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2012

課題番号：22520570

研究課題名（和文） 医学英語教育の基礎研究：タスク中心の有機的統合的教材開発

研究課題名（英文） A Basic Study of Teaching English for Medical Purposes: Task-oriented Integrated Material Development

研究代表者

樋口 晶彦 (HIGUCHI AKIHIKO)

鹿児島大学・教育学部・教授

研究者番号：20189765

## 研究成果の概要

（和文）：医学英語教育の基礎研究として、まず看護英語に特化したタスク中心の統合的教材開発 3 年をかけて取り組んだ。その結果、*First Aid!*: 看護英語の総合的アプローチ（金星堂出版）を完成し出版出来た。その内容は、看護師（医者）と患者との対話、語構成、痛み、症状、病気、さらに読解文（看護師と患者との効果的コミュニケーション、代表的な病気）までも書き下ろすことが出来た。

## 研究成果の概要

（英文）：We could accomplish publishing a textbook “*First Aid!*” that focuses on English for Nursing, one of the EMP (English for Medical Purposes). This was the most successful result in our study for the past three years of our study. This textbook includes (1) doctor (nurse) – patient consultation, (2) basic expressions, (3) word structure (terminologies), (4) reading passages, (5) pains, (6) symptoms, (7) disease, (8) and further study.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：医学英語教育、教授法、教材開発、看護英語、統合的教材、タスク

## 1. 研究開始当初の背景

## 1.1 学術的背景

本研究に関する内外の動向

- 医学目的の英語（EMP：English for Medical Purposes）の教材は最近では伝達中心で四技能を駆使したものとなっている。例えば、McCullagh & Wright

(2008)の *Good Practice*, Gledinning, や E.H, & Holmstrom, B, A.S.(2005) の *English in Medicine*. などは伝達中心でかつ四技能を駆使し、タスクを含めた学習者中心の内容になっていて、こうした EMP の教材は、CLT の教授法に基づきながらもタスクを中心とした教材になっていて、BMJ (British Medical Journal)、他 authentic な学術雑誌からの論文や読解の英文が含まれている。

- こうした EMP の教材研究は近年海外では著しいが、日本においては日本人のための EMP 教材の種類や内容なども十分なものではなく、一貫性にも乏しい。医学部において必要とされる英語の語彙、語法も含めて、何が医学英語において求められているのかの基礎的な研究が必要であり、それに基づいた教材開発を進める必要がある。
- こうした教材開発は、単に語彙、語法だけに特化してはならない。四技能を含めて ICT を利用した統合的な教材が求められていて、かつ日本人英語学習者を中心としたものでなければならない。

## 1.2 本研究着想に至った経緯

- こうした状況の中、筆者は 2007-2008 年度において、科学技術研究費助成を受けて「日本の外国語教育改革」の研究に携わった。そして、韓国、EU の CEFR などの言語政策、外国語教育政策、教育支援制度などがかなり進展している一方で、日本の高等教育機関における学術英語教育 (EAP) がかなり遅れをとっている印象を強くもつようになった。
- 高い英語能力をもって入学した医・歯学部部の学生に対して必要とされる EMP 教育が本学のみならず、多くの国立の医・歯学部部においても十分実施されていない現状が存在する。この大きな理由は、EMP の内容や教授法、評価法などの知識が担当の英語教員に不足していることが考えられる。
- こうした状況下、筆者は 2009 年 8 月 1 日-15 日までエジンバラ大学で 40 時間の「医学英語教授法」を受講してきた。しかし、自費だったために文献、資料、CD など満足な収集ができなかった。ど

うしても EMP の基礎的研究のためには、研究助成が必要であることを痛感した。

- そのような時期を経て、ようやく 2010 年度に科学技術研究費助成の採択を受けることが出来た。この採択によって本格的に EMP 教育の教材開発研究に取り組むことが可能になった。そして、2012 年 10 月によりやく看護英語の教材開発の結果、拙著、*First Aid! 看護英語への総合的アプローチ* (金星堂) を出版した。科研費の御陰で念願の研究の第一歩が完成した。
- 次の研究段階として看護師から次は医者を中心とした EMP 教育の基礎的研究を進めていく段階に入った。そのためには、大学英語教員のみならず、専門知識を有する医学の専門家も含めて進めていくことが肝要である。そして何が日本の EMP 教育に求められているのか、何をどのように系統立てて指導することが求められているのかを研究することが大切である。本研究は、医者に焦点を当てて、大学の専門課程への橋渡しとした大学医学英語教育において、有機的統合的教材開発を目指すことになった。

## 1.3 研究期間内の目標

- 昨年度までの 3 年間にわたる科研費に基づいた EMP 教育の基礎研究において、どのような内容が求められているのかを知るために、大学の医学部、歯学部、看護学部などの学生及び教員に対する Needs 分析を実施した。その結果、大学の半期 15 回の講義においてさらに、通年の場合、30 回の講義において、EMP 教育における四技能の内容を絞り込んでいくことが必要なことがわかった。
- それらは、doctor-patient talk において代表的な語法、表現方法 (language focus) を明確にすること。どのように患者と対話において接触することが言語的優しさをもつのか (language softening)、好ましい表現とそうでないものを明確にすることもこの doctor-patient talk の大事な視点であることがわかった。今回の研究ではさらに以下の諸点を目標とする。
- 語彙の選択と指導方法の確立を目指す。これは著者が 2012 年 10 月に出版した

*First Aid!*看護英語の総合的アプローチ (金星堂) の、語彙の選択、指導方法に基づく。基本的には、以下の方法で語彙の選択、指導方法を研究していく。語彙の発音、語構成、語幹(stem words, root words)、接頭辞、接尾辞、の分類。今回の研究では、医学英語の略語にも取り組む。

- ・ 読解の指導方法と評価法を確立する。難易度の低いものから難易度の高い読解のためのテキストを新たに書き下ろすことにする。医学の専門領域は、拙著 *First Aid!* の領域と同じ領域とする。
- ・ 「薬」「痛み」「症状」に関する基本的知識を研究、考察する。領域は、拙著 *First Aid!* の医学の専門領域と同じ領域とする。そして、これは専門医の有資格者である研究分担者、及び連携研究者においてのアドバイスに従いつつ実施する。最終的に大学の pre-clinical の学生を対象とした難しすぎない内容を検討してその教材開発を行う。

## 2. 研究の目的

- ・ 2012 年度までの 3 年間にわたる科研費に基づいた EMP 教育の基礎研究において、どのような内容が求められているのかを知るために、大学の医学部、歯学部、看護学部などの学生及び教員に対する Needs 分析を実施した。その結果、大学の半期 15 回の講義においてさらに、通年の場合、30 回の講義において、EMP 教育における四技能の内容を絞り込んでいくことが必要なことがわかった。
- ・ それらは、doctor-patient talk において代表的な語法、表現方法(language focus)を明確にすること。どのように患者と対話において接触することが言語的優しさをもつのか (language softening)、好ましい表現とそうでないものとを明確にすることもこの doctor-patient talk の大事な視点であることがわかった。今回の研究ではさらに以下の諸点を目標とする。

## 3. 研究の方法

- ・ 語彙の選択と指導方法の確立を目指す。これは著者が 2012 年 10 月に出版した *First Aid!*看護英語の総合的アプローチ

(金星堂) の、語彙の選択、指導方法に基づく。基本的には、以下の方法で語彙の選択、指導方法を研究していく。語彙の発音、語構成、語幹(stem words, root words)、接頭辞、接尾辞、の分類。今回の研究では、医学英語の略語にも取り組む。

- ・ 読解の指導方法と評価法を確立する。難易度の低いものから難易度の高い読解のためのテキストを新たに書き下ろすことにする。医学の専門領域は、拙著 *First Aid!* の領域と同じ領域とする。

「薬」「痛み」「症状」に関する基本的知識を研究、考察する。領域は、拙著 *First Aid!* の医学の専門領域と同じ領域とする。そして、これは専門医の有資格者である研究分担者、及び連携研究者においてのアドバイスに従いつつ実施する。最終的に大学の pre-clinical の学生を対象とした難しすぎない内容を検討してその教材開発を行う。

## 4. 研究成果

- ・ 本研究は、日本人 EMP 学習者に特化してタスクを導入した点にも特徴がある。さらに 2 回もの Needs 分析を実施して、医学部の教員、学生が真に必要なとしている英語を四技能のみならず論文の口頭発表にまで繋げてその教材開発を行うところにも学術的意義が考えられる。
- ・ こうした教材の開発と実際の講義での実践を通して、大学の医学生、歯学生、看護学生などが広く世界で活躍するために必要な四技能を含めた EMP の基本的知識が学習可能となる。
- ・ このような学術的意義を踏まえて開発したのが *First Aid!* 看護英語への総合的アプローチ (金星堂) であった。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

1. Common Asian Framework of References for Languages in Learning, Teaching, and Assessment  
Akihiko Higuchi  
鹿児島大学教育学部研究紀要 教育科学編 第 63 巻 2012 1-12pp  
(査読無し)

2. A Study of Automated L2 Writing Evaluation by Japanese College Student: Eva Text Analysis  
Akihiko Higuchi  
鹿児島大学教育学部研究紀要 教育科学  
編 第64巻 2013 1-19pp  
(査読無し)

〔学会発表〕(計1件)

First Aid 出版までの経緯と今後の展望  
樋口晶彦  
JACET ESP 研究会 宮崎看護大学  
2013年3月28日

〔図書〕(計1件)

First Aid : 看護英語への総合的アプローチ  
75pp. Akihiko Higuchi & John Tremarco  
金星堂 2012年 11月

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

樋口晶彦 (HIGUCHI AKIHIKO)  
鹿児島大学・教育学部・教授  
研究者番号 : 20189765

### (2) 研究分担者

坂本育生 (SAKAMOTO IKUO)  
鹿児島大学・教育学部・教授  
研究者番号 : 80153906

### (3) 研究分担者

富岡龍明 (TOMIOKA TATSUAKI)  
鹿児島大学・教育センター・教授  
研究者番号 : 90310010

### (4) 研究分担者

橋口知 (HASHIGUCHI TOMO)  
鹿児島大学・教育学部・准教授  
研究者番号 : 90315440